

グラフィック・シラバスを書こう

SPODフォーラム2017

2017.8.25.13:00～15:00

徳島大学 宮田政徳

1

今日のワークショップの内容

1. 担当講師の自己紹介
2. グループのメンバー同士の自己紹介
3. テキスト・シラバスの限界
4. コース・デザインとは何か
5. グラフィック・シラバスとは何か
6. グラフィック・シラバスの特徴
7. グラフィック・シラバスの例
8. グラフィック・シラバスの作り方
9. グラフィック・シラバス作成手順
10. グループ&全体プレゼンテーション
11. 参考文献

2

今日のワークショップの到達目標

1. テキスト・シラバスの限界を説明できる。
2. グラフィック・シラバスの特徴を説明できる。
3. グラフィック・シラバスの作成手順を説明できる。
4. 自分の授業のグラフィック・シラバスを書き上げる。
5. 自分の授業のグラフィック・シラバスを発表する。

3

講師の自己紹介

宮田政徳

専門：英語学、高等教育

FD歴：2002年より、徳島大学大学開放実践センターの高等教育支援研究開発部門に所属し、全学FDの企画・運営を担当。現在は、総合教育センターの教育改革推進部門に所属。SPODではSPODコア運営協議会で徳島大学FD担当者。

4

グループメンバー同士の自己紹介

ネームプレート作り

1. 机の上のA4の紙を4折りにして開き、外側の2辺を内側に折って重ねて下に置き三角形にして、上の2辺に次のように

①表に: 自分の所属(大学や学部名)と氏名

②裏に: 自分の専門や教えている授業科目の内容を書いて下さい。

2. 記入し終わったら、①を相手方に見えるように置いて下さい。

グループのメンバーの自己紹介

3. 机のグループのメンバー同士で②を主に参考にして、自己紹介して下さい。(1人2分位で交替して下さい)

5

テキスト・シラバスの限界

1. シラバスを読まない学生

・シラバスはちゃんと読まれているの？

2. シラバスを読めない学生

・読解力の低下に伴い、テキストよりグラフィックになじみがある。

3. テキストシラバスは全体構造が伝えにくい。

・文章で記載されたテキストシラバスは、15回の授業のコース全体の構造が伝えにくい。

・学習の最初に、その学問特有の知識枠組み(知識体系)を示すことが、効果的な学習には有効である。

・テキストシラバスの弱点を補強するために、グラフィックを用いたシラバス(グラフィック・シラバス)を併用するとよい。

6

テキスト・シラバスの限界

授業構造の可視化

大学教員
(熟達者)



構造化
された
知識

テキスト・シラバス

学生
(初学者)

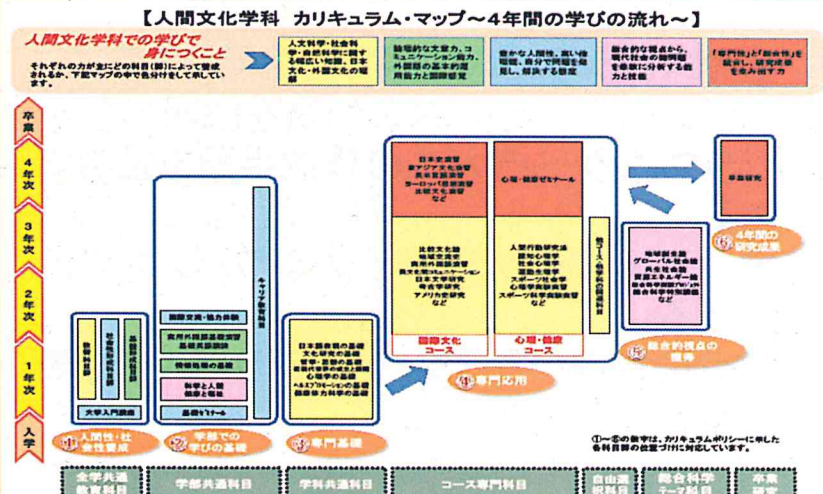


構造化
されない
知識

構造化(体系化)された知識をテキスト・シラバスは伝えられない。

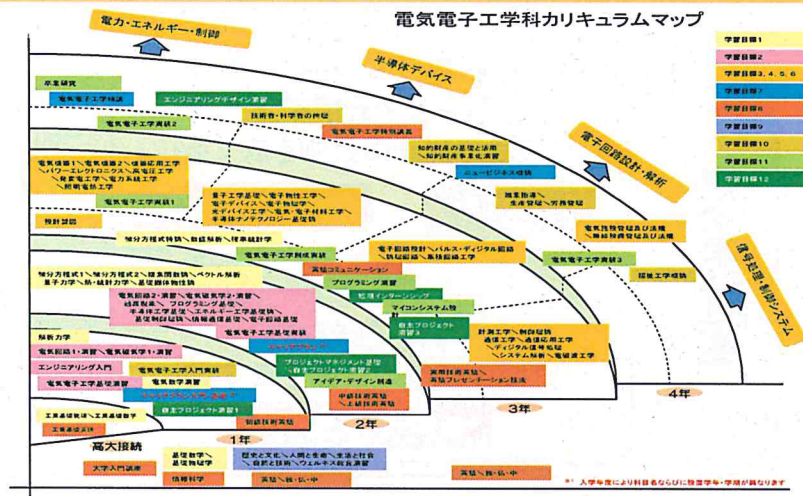
7

学修の可視化の例(カリキュラムマップ)



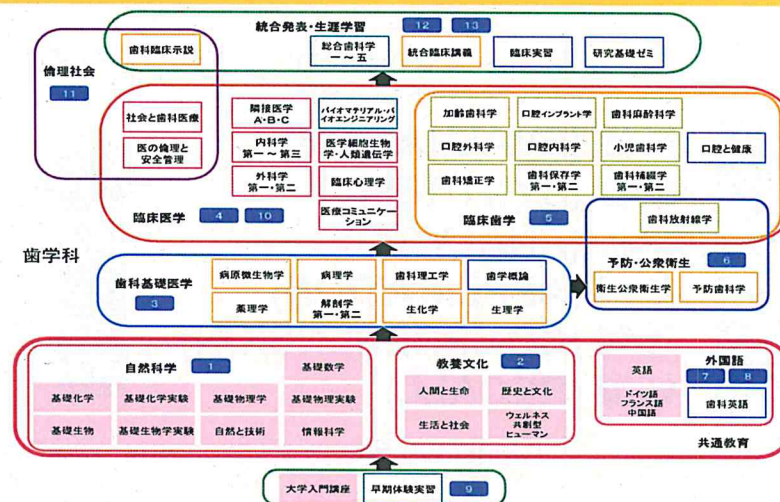
8

学修の可視化の例 (カリキュラムマップ)



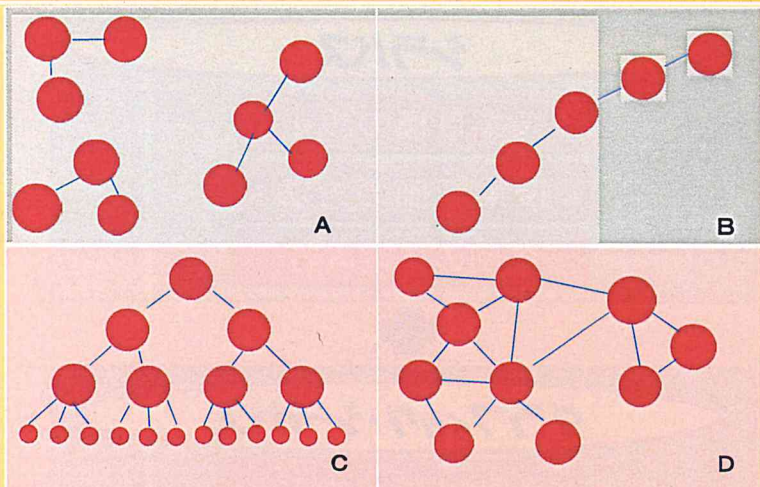
9

学修の可視化の例 (カリキュラムマップ)



10

知識構造の体系化



11

知識構造の体系化

知識を体系化することは、学生がどのように学習し、知っていることをどのように応用するかに影響を及ぼす。

学生は知識の数々を結びつけようとする。この結合が意味のある形で正しく体系化された知識構造となっているとき、学生は効果的かつ効率的に知識を取り出し、それを応用することができる。反対に、知識が不正確あるいはでたらめに結合されたとき、知識を取り出したり、適切に応用したりするのが難しくなる。(『大学における「学びの場づくり」—よりよいティーチングのための7つの原理』、スーザン A アンブローズ他、栗田佳代子訳、2014)

12

認知領域の学習到達目標

学習の質が高い

深い学習

認知領域の学習活動

評価 (EVALUATION)
統合 (SYNTHESIS)
分析 (ANALYSIS)
応用 (APPLICATION)
理解 (COMPREHENSION)
知識 (RECALL)



(Benjamin Bloom's Taxonomy, 1956)

13

コース・デザインとクラス・デザイン

授業計画

コース・デザイン

(15回の授業の計画を立てる)

シラバス

グラフィック・シラバス



クラス・デザイン

(1回の授業の計画を立てる)

授業計画書(指導案)

14

授業計画書の例

授業計画書 名前: □□□□

授業科目名	生命倫理と現代社会Ⅱ	授業対象学年	高等学校3年生
授業日時	2015年 6月 2日	授業場所	共通教育棟4号館305
授業テーマ	小児の臓器移植に関するグループ・ディスカッション		
授業目標	小児の臓器移植に関して、自らの意見を述べるとともに、班内のディスカッションを通じて問題を多面的に理解すること。		
時間配分・構成	内容の要約	教材	
16:20 開講	開講講話に対して出されたリアクション	配布プリント	
16:30 質疑応答	メンバーの素直な意見を紹介するとともに、受講生の質問に答える。		
16:40 スモールグループ・ディスカッション	ディスカッションを行う事例に関する読解プリント		
16:50 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
16:55 教材VTR鑑賞	小児の臓器移植に関する事例を集めて教材VTR		
17:00 班分け	特定の学部・学科の学生が集まり過ぎないように、5-6人で1班になるように班分けを行う。		
17:05 班内ディスカッション	配布プリントに提示されている4設問の配布プリント		
17:10 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:20 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:25 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:30 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:35 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:40 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:45 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:50 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
17:55 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:00 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:05 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:10 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:15 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:20 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:25 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:30 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:35 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:40 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:45 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:50 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
18:55 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:00 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:05 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:10 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:15 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:20 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:25 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:30 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:35 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:40 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:45 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:50 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
19:55 班内ディスカッション	班内ディスカッション		
20:00 班内ディスカッション	班内ディスカッション		

15

コース・デザインのポイント

シラバス

授業目標の設定

授業評価の方法

各回の授業内容



グラフィック・シラバス

各回の授業の並べ方

16

グラフィック・シラバスとは何か

授業における重要概念間の系統性・関連性を図式化したフローチャート(流れ図)やダイアグラム(図形)である。
(Linda B.Nilson, 2007)

■コンセプト・マップ(概念地図法)と呼ばれている学習指導法をシラバスに応用したもの。元来は、初等・中等教育において、学習者の知識状態を確認するために使用されている。

■知識の総合性・体系性を示すことができる。

■図示により、情緒面・注意面・教示面・支援面・記憶面で学習者の内容理解を高めることができる。

17

グラフィック・シラバスの特徴

■学問分野によって異なる形状となる。(直線的なものから、螺旋型まで)

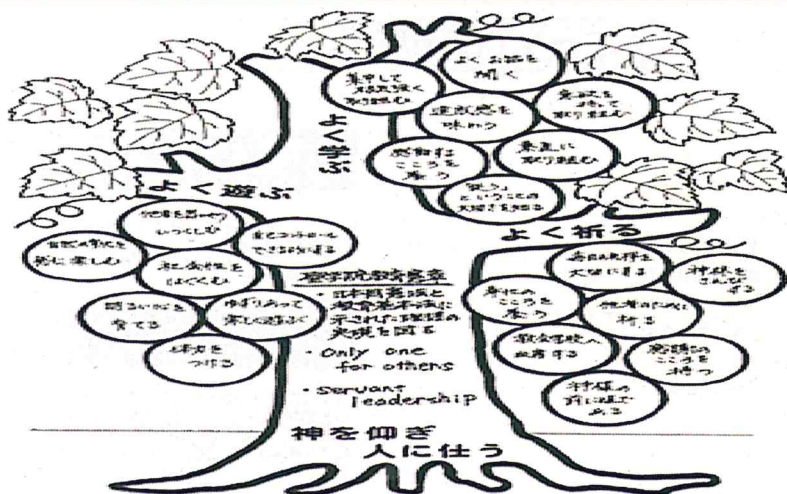
■教授者にとっては、教育のための知識の組織化に有効である。

■学習者にとっては、効果的な概念理解のために有効である。

■授業初日に提示したり、毎回の授業で提示したり、授業の単元が進む毎にマップの要素を付け足して行ったりできる。

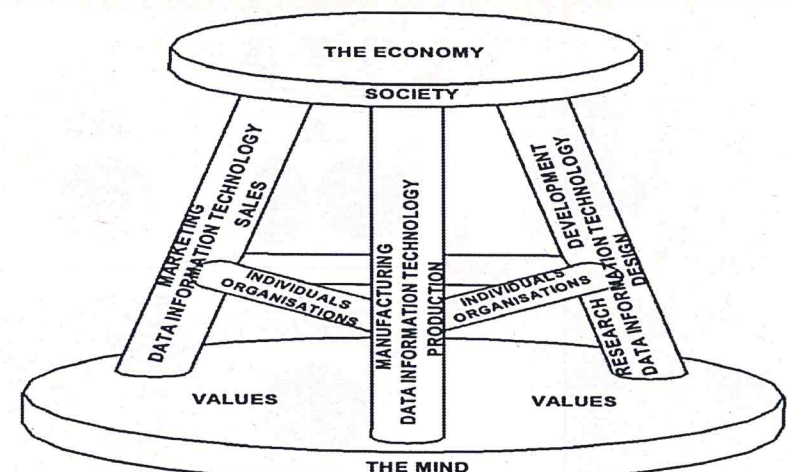
18

グラフィック・シラバスの例 (図形型)



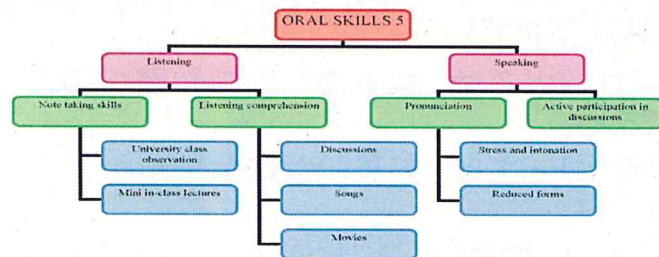
19

グラフィック・シラバスの例 (図形型)



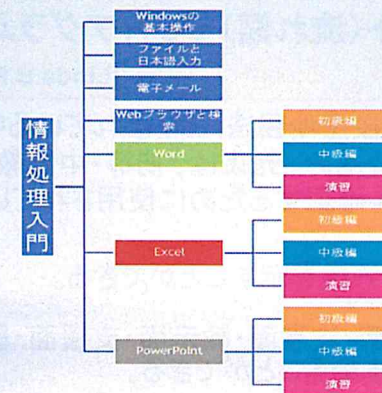
20

グラフィック・シラバスの例（線形型）



21

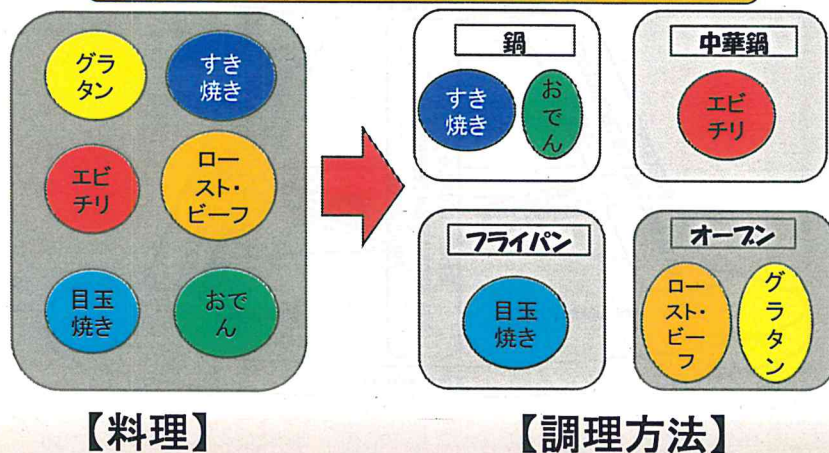
グラフィック・シラバスの例（線形型）



22

グラフィック・シラバスの例（自作）

料理と調理法

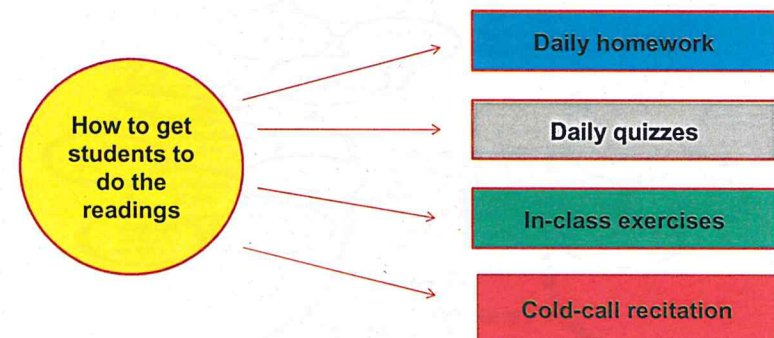


【料理】

【調理方法】

グラフィック・シラバスの作り方

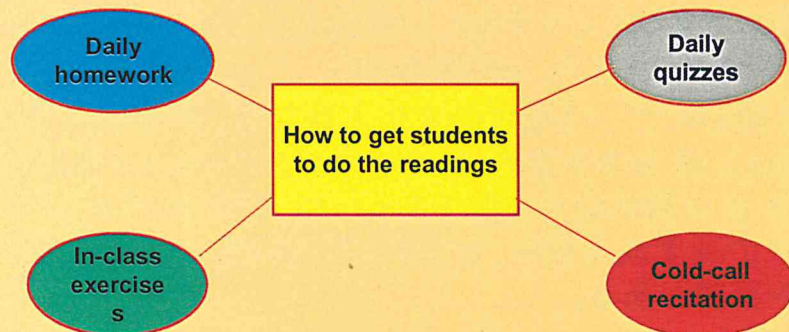
パターン1(矢印を使う)



24

グラフィック・シラバスの作り方

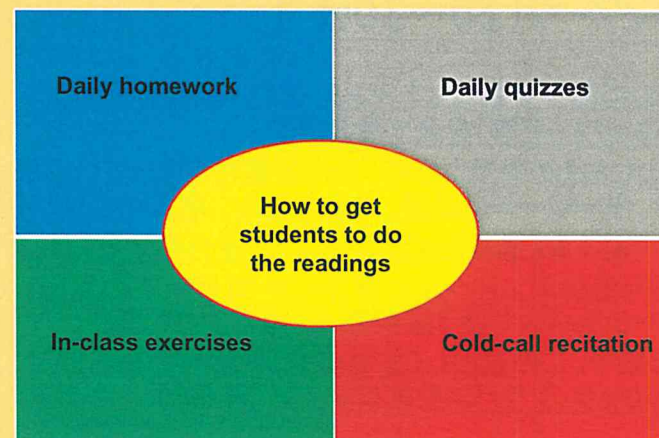
パターン2 (線で結ぶ)



25

グラフィック・シラバスの作り方

パターン3 (枠や図形の中に入れる)



26

グラフィック・シラバスの作り方

パターン1

自分が担当する或授業の15回分の授業のグラフィック・シラバスを作成し、各回の繋がりを示す。(持参したテキスト・シラバスを参考にして作成する。)

パターン2

自分の専門領域の学問体系を示すグラフィック・シラバスを作成する。

パターン3

パターン1とパターン2のミックス(或15回分の授業は、自分の専門領域の学問体系の何処に位置するかを示すグラフィック・シラバスを作成する。)

27

グラフィック・シラバス作成手順

全体の流れ

グラフィック・シラバス作成個人ワーク (20~30分)



ペアワークによるブラッシュ・アップ (10分)



グラフィック・シラバス作成個人ワーク(仕上げ) (10分)



全体又はグループによるプレゼンテーション (20分)

28

グラフィック・シラバス作成手順

個人ワーク(20～30分)

1. 自分の授業で大事なことだと思っていること(概念、アイデア、キーワード等)を全て書き出す。
2. 書き出したものを見ながら、最も重要だと思っている概念、アイデア、キーワードを厳選して絞り込み、ポスト・イットに書く。
3. 意味のあるまとまり毎にポスト・イットを分類する。(KJ法)
4. まとまり毎のポスト・イットに見出しをつける。この見出しがグラフィック・シラバスで使う重要概念となる。(KJ法)
5. A3用紙で、この見出し(重要概念)を意味のあるように整理し、グラフィック・シラバスを完成する。(KJ法)

29

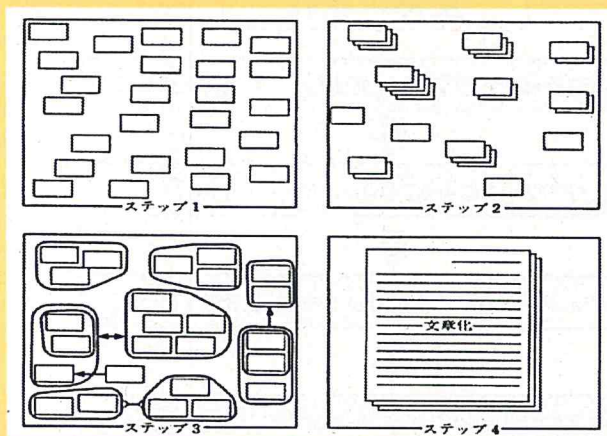
KJ法とは

カード操作による発想法

- 日本で多くの人々が新しい知識を作り出す時に用いているものとしてKJ法がある。
- 名前のKJは、提唱者の文化人類学者、川喜田二郎(東京工業大学名誉教授)のイニシアルから来ており、元来は学問的な方法論であったが、1960年代から70年代の高度成長期に、ビジネスマンの間で広く用いられた経緯がある。

30

KJ法の4つの作業段階



31

グラフィック・シラバス作成手順

ペアワークによるブラッシュ・アップ(10分)

1. 話し手は教員役、聞き手は学生役となります。(一人5分位)
2. 話し手は、自分の作成したグラフィック・シラバスの背景にある考え方を説明します。細かな内容の説明ではなく、構造原理を簡潔に説明します。
3. 聞き手は、話し手の説明がグラフィック・シラバスにうまく表現できているかどうかを判断しながら聞きます。意味不明や一貫性がない部分があれば、質問します。代替案の提案も行います。
4. 今度は役割を変えて、ブラッシュ・アップを行います。(一人5分位)

32

グラフィック・シラバス作成手順

フィードバックによる修正と仕上げ（10分）

ペアワークのフィードバックによってブラッシュ・アップされたグラフィック・シラバスを修正して、A3の紙に清書して仕上げてください。

33

グラフィック・シラバス作成手順

プレゼンテーション（20分）

<グループ内で発表>（10分）

グループのメンバー同士で、一人ずつ自分の作成したグラフィック・シラバスを発表してください。（1人2～3分位で）

<全体で発表>（10分）

各グループの代表（よく出来たグラフィック・シラバスを作成した人）が自分の作成したグラフィック・シラバスを、前に出て発表してください。（1人2～3分位で）

34

参考文献

- 佐藤隆博、『構造学習法の入門—コンセプト・マッピング・アプローチ』、(明治図書、1996)
- スーザン A アンブローズ他、栗田佳代子訳、『大学における「学びの場」づくり—よりよいティーチングのための7つの原理』、(玉川大学出版部、2014)
- R.M.ガニエ他、鈴木克明訳、『インストラクショナル・デザインの原理』、(北大路書房、2007)
- 鈴木克明、『教材設計マニュアル』、(北大路書房、2002)
- 池田輝政他、『成長するティップス先生』、(玉川大学出版部、2001)
- O'Brien, Judith Grunert; *The Course Syllabus—A Learner-Centered Approach*, Jossey-Bass, (2008)
- Nilson, Linda B; *The Graphic Syllabus and the Outcomes Map*, Jossey-Bass, (2007)

35

